

平成28年第2回燕市議会定例会  
一般質問日程表

質 問 日		質 問 者			質 問 方 式	
					一括質問	一問一答
6月16日(木)	午前	1	渡邊 雄三 議員		○	
	午後	2	白井 丈雄 議員	○		
		3	山本 知克 議員		○	
		4	小林 由明 議員		○	
		5	堀 勝重 議員		○	
17日(金)	午前	6	埴 豊 議員		○	
		7	土田 昇 議員		○	
	午後	8	山崎 光男 議員		○	
		9	樋浦 恵美 議員		○	
		10	齋藤 信行 議員	○		
		11	山崎 雅男 議員		○	
20日(月)	午前	12	柳川 隆 議員		○	
		13	宮路 敏裕 議員		○	
	午後	14	藤井 秀人 議員		○	
		15	長井由喜雄 議員		○	
		16	大岩 勉 議員		○	
		17	タナカ・キン 議員		○	

平成28年第2回燕市議会定例会「一般質問表」

発言の順序	発言する議員	質問項目(大項目)	質問要旨(中項目)	具体的な内容(小項目)	
1	渡邊雄三 (一問一答方式)	1. 自転車利用者の安全対策について	(1) 自転車保険の加入促進について	①自転車加害者となった交通事故で高額な賠償金が請求される事例が年々増加傾向にある、交通安全教室での周知を徹底するなど自転車保険の加入促進に取り組むべきではないか、又、将来的には条例化を検討すべきと思うが考えを伺います。 ②市内中学校に通う生徒の内、自転車で通学する学校別生徒数を伺います。 ③今後、自転車通学を許可する際に、保険加入を条件とするべきと思うが考えを伺います。	
			(2) ヘルメット着用について	①自転車事故が発生した際にヘルメットを着用していれば、頭部への衝撃は大幅に軽減し、寝たきりになったり、死亡するリスクも低減する。特に幼児へのヘルメット着用を周知すべきと思うが現状と今後の対策について伺います。	
			(3) 自転車クラブについて	①以前、吉田小学校では、「交通安全教育は、人格や行動習性の形成期にある子どものときから行うことが効果的である」この趣旨のもと、自転車クラブがあり活躍をしていたと聞いているがクラブの復活を検討していただきたいが考えを伺います。	
		2. 空き家対策について	(1) 地域住民の不安解消について	①特定空き家等の基準までいかないが、管理者不在などで地域住民が防犯・環境等で困っているものや不安に思っている空き家に対して、市としてどのように対応していくのかを伺います。	
			3. 市民の安心・安全について	(1) 国土強靱化地域計画に向けた市の取り組みについて	①国土強靱化地域計画の策定については、今後とも発生するであろう大規模自然災害等から、市民の生命・財産を守ることを最大の目的として、そのための事前の備えを効率的かつ効果的に行うことの観点から早急に策定・公表すべきと思うが考えを伺います。
				(2) 職員の危機管理能力について	①救命技能向上の一環として、市役所・公共施設や市の出先機関に勤務する市職員に対して、赤十字救急法基礎講習(心肺蘇生法)を積極的に推奨すべきと考えるが、現在の取り組みと考えを伺います。
		(3) 減災対策について	災害対策の基本は「自助」である。どのような事態においても自分の命は自分が守るという備えが必要です。阪神・淡路大震災、此度の熊本・大分地震においても亡くなった人の8割以上が地震直後、崩れた家屋や倒れてきた家具などの下敷きになり短時間のうちに亡くなっています。このようなことにならないよう普段から住宅の耐震補強や家具などの転倒防止を行っていく必要があります。また、電気を起因とする火災、いわゆる二次災害「通電火災」が多く見られます。国は2015年2月「感震ブレーカ等の性能評価に関するガイドライン」作り、自治体に普及に向けた取り組みを求めています。そこで伺います。 ①啓発活動を行っていくべきだが、現状と今後の取り組みについて伺います。 ②生活弱者、高齢者等に一定の補助を検討する必要があると思うが考えを伺います。		

発言の順序	発言する議員	質問項目(大項目)	質問要旨(中項目)	具体的な内容(小項目)
2	白井 文雄 (一括質問方式)	1. 総務行政について	(1) 附属機関審議会委員の在り方について	<p>① 審議会委員の選任に当て職が多くないか。</p> <p>② 併任する委員会数が多く負担が大きくないか。</p> <p>③ 近隣市村の審議会委員の併任取扱状況はどうか。</p> <p>④ 審議会の中で既に設置目的が達成され整理する必要はないか。</p> <p>⑤ 社会情勢等から設置の必要性が低下し、審議会が形骸化していないか。</p>
		2. 教育行政について	(1) 学校教職員の多忙化解消アクションプランについて	<p>① 各校への県通知の取り組みは徹底されたのか。そして、多忙化は解消されたのか。</p> <p>② 市教育委員会での反省点はどうか。</p> <p>③ 今後の多忙化解消についての取り組みはどう考えていくのか。(県、市それぞれの取り組みについて)</p>
3	山本 知克 (一問一答方式)	1. アクティブシニア活躍のために	(1) 燕市民のアクティブシニア世代をターゲットにしたアンケートを	<p>① 団塊の世代を中心として新たな生活スタイルや文化を形作ってきた現在のシニア層の多様な価値観を今後のまちづくりに生かすとともに、これら世代の方々の「知識・経験」を次世代につなげていくために、アクティブシニア世代をターゲットにしたアンケート調査が全国でも行われている。燕市でもシニア層の対象にアンケート調査を実施し、アクティブなシニアの動向や、特に男性に少ないとされている社会参加を、今後のまちづくりの主演として応援することが求められている、施策の展開に向け基礎資料作りのため実施してはどうか伺う。</p> <p>② 実際に地域づくりやボランティア活動に参加しているが、その一方で一度体験しても、「時間がない」との理由で、その後の活動を継続できないケースがあるとも聞く。</p> <p>現在様々な活動を行っている団体の中にはメンバーの固定化や高齢化が悩みとなっている例も多く、社会経験が豊富で活力もある団塊の世代、アクティブシニア世代が主軸になることも期待されているが今後の考え方について伺う。</p>
		2. 生涯学習活動からボランティア活動へつなげるには	(1) 生涯学習活動からボランティア活動へつなげるにはPDCAサイクルを活用した施策を	<p>① 第2次燕市生涯学習推進計画の中でも5割を超える市民が学習活動を経験しておられ県内平均を上回っており、全国平均の6割より下回っているものの学習に対する意欲の高さが読み取れる。</p> <p>学習の成果をどのように活用したかを伺うと、自己の充実や生活の改善などに活用が多く、ボランティアや社会貢献に活用は約1割にとどまっており全国の平均よりかなり少ないが、どのように考えているか伺う。</p> <p>② ボランティア活動や、市民活動に参加したい思いのある人々に応えるためには、企業などへのアプローチ(数時間または休日のボランティア参加など)をはじめ、市民に対してボランティア活動への理解を促していく必要がある。</p> <p>看護師や保育士など専門的なキャリアや資格をもっている人たちや、ボランティア活動に意欲をもっている学生など、若い世代を活用するためのシステムと組織づくりを進めてはどうか伺う。</p>

(次ページへ続く)

発言の順序	発言する員	質問項目(大項目)	質問要旨(中項目)	具体的な内容(小項目)
3	山本知克(一問一答方式)		(2) ボランティア活動への呼びかけ	<p>① ボランティア活動への呼びかけに対して以下のことを伺う。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 専門的なキャリアや資格をもっている人、学生などに対するボランティア活動への参加の促進</li> <li>2) 男性の参加しやすい興味の持てる企画を</li> <li>3) ホームページなどでの情報発信(ボランティア団体の紹介、ボランティア募集、ボランティアのスキルを上げるための講座募集など)</li> <li>4) 各分野でのボランティアニーズの調査(埋もれているニーズの掘り起こし)</li> <li>5) 市で行う様々な事業でボランティアを生かす仕組みづくり</li> <li>6) ボランティア活動へのきっかけづくりや活動を継続するための仕組みづくり、まちの先生・ボランティアバンク他</li> </ol>
		3. 犯罪抑止のために	(1) 通話録音装置モニターについて	<p>① 振り込め詐欺、悪徳商法などの被害防止のため、本年1月より、一人暮らしの高齢者・高齢者のみの世帯・日中独居の家庭に向け、通話録音装置55台のモニターを募集したが、貸し出し状況と市民の声はどうだったのか伺う。</p>
			(2) 第三者請求にかかわる登録型、住民票本人通知制度について	<p>① 平成27年3月議会で一般質問の回答では、第三者請求にかかわる本人通知制度については、戸籍謄本などの不正請求に対して一定の抑止効果が認められるもので、制度の導入を将来的には検討する必要があるものと考えているとの答弁をもらっている。</p> <p>同制度の件について、本年2月の人権キャラバンからの再要請に対して、平成29年1月のシステム改修後に導入を検討することだが、実施時期について回答はなかった。仮に実施できるとすると、平成29年7月～8月と口頭で言われたと聞いたが、時期について再度伺いたい。</p>
		4. 人権教育について	(1) 各種研修会について	<p>① 人権の問題を考えると、学校のいじめ、セクハラ、パワハラ、児童、障害者、外国人への虐待、配偶者への暴力、高齢者への虐待など人権侵害があとを絶たない。</p> <p>また、国際化や社会経済状況の変化を背景として、インターネット上で特定個人を誹謗中傷するなどの新たな人権問題も生じており、人権問題は多様化・複雑化している。</p> <p>人権意識を高め、人権文化を確立するための教育・啓発を進めるためにも段階的な学習の機会を持つ必要があると思われるが、有識者や人権団体を巻き込み学習会を市民・職員向けに、複数回開催し啓発に努めてはどうか伺う。</p>
		5. 高齢者の利用しやすい環境を求めて	(1) 認知症オレンジカフェについて	<p>① 認知症オレンジカフェについて、市内各地で開催されるようになり市民からの関心も徐々に高まっていると思われます。本年5月につばめホールでのカフェ開催時に伺いましたが、今回初めてお目見えした、オレンジカフェの「のぼり旗」は参加者・スタッフとも好印象を持たれていました。</p> <p>参加者の声を伺うと、会場によっては常連も多く固定化してきている。関心はあるが一般の参加者から、カフェにはお越しいただいていないのでは無いかとの問題提起もあった。</p> <p>実際の割合はどうか、受付で「一般、ボランティア、関係者、包括支援センター職員・施設職員」等チェックをしているが他の会場ではどうか、内容を含め問題は無いか伺います。</p> <p style="text-align: right;">(次ページへ続く)</p>

発言の順序	発言する議員	質問項目(大項目)	質問要旨(中項目)	具体的な内容(小項目)
3	山本知克 (一問一答方式)			<p>②今後、認知症の理解を広めるためにもカフェの開催箇所を増やすとともに定期化も考慮し、増え続ける認知症の理解や気軽に立ち寄れる相談窓口としての利用も考えられる。さらに市民や家族から多くの参加を募っていくために宣伝活動の強化やボランティアを広く募ることも、必要だと思いが考え方を伺います。</p> <p>(2)介護保険の相談窓口、包括支援センター周知へ提案</p> <p>①燕市内の地域包括支援センターを訪れた際、どの人が包括支援センターの職員か、また包括支援センター案内表示が分かりづらく、相談時に迷ったとの声が利用者からあったが改善に向けての指導をどのように考えているか伺う。</p> <p>②介護保険の名前は知っていても包括支援センターについては、まだまだ市民には知られていない。周知活動のさらなる広がり求めて、予防介護や成年後見制度の普及のためにも次のように提案をしたい。 介護保険で重要な役割を持つ、包括支援センターの周知のために回覧板の利用を進めてはどうか。市民の声として広報では読んでも忘れてしまう。介護保険のパンフレットもとっておくのだが健康だと興味が無く、紛失してしまうとも聞く。 毎月回ってくる回覧板に、包括支援センターからのお知らせやオレンジカフェの案内等を定期的に入れ、できれば〇〇通信のような形で周知を図ってはどうか伺います。</p>
4	小林由明 (一問一答方式)	1. 福祉施策について	<p>(1) 認知症を取り巻く周辺環境について</p> <p>(2) 障がい者の就労支援について</p>	<p>①社会的な問題となっている認知症について、それが及ぼす住民生活への影響をどのように考えているか。</p> <p>②認知症への理解を深めるための取り組みやその他具体的支援など、現在でも行政としての取り組みはなされているが、認知症への施策は、社会保障制度を支える現役世代への支援ともいえ、認知症の大幅な増加が見込まれる後は、さらなる取り組みの拡充が早急に必要であると考えている。市はどのように考えているか伺いたい。</p> <p>③空き家等を活用し、軽度の認知症の方のお世話を気軽にお願いできる「場」の設置を、住民との協働により実現できないか。</p> <p>①障がい者の就労支援について、市の取り組みを伺いたい。 ②障がい者といわれる方にも、それぞれに得意とする分野や秀でた能力を発揮できる分野があるはずであり、それらの能力発揮や障がい者の就労機会を増やしていくことを目的に、就労支援を行っている福祉事業所と商工農事業者や商品開発プロデューサー、デザイナーなどとの交流や結び付けの機会を積極的に作っていくべきではないか。</p>

(次ページへ続く)

発言の順序	発言する議員	質問項目(大項目)	質問要旨(中項目)	具体的な内容(小項目)
4	小林由明 (一問一答方式)	2. 人材活用について	(1) 専門的知見を有する人材の登用とその活かし方について	<p>①専門的知見を有する人材を登用することにより、行政の取り組みの向上に務めているが、その能力や持てる力が最大限に発揮されるためにどのような課題があり、それに対してどのように取り組んでいるか伺いたい。</p> <p>②専門的知見を有する人材の登用は、市行政の質の向上のため今後も積極的に取り組んでいただきたいと考えているが、市行政の質の向上にとどまらず、市民にもその知見に触れることのできる機会をつくっていくべきと考えており、それらの方による講演会や市民勉強会の開催、また、それらの方の持つ人脈と市民とのマッチングなど企画できないか。</p>
		3. 産業史料館について	(1) 産業史料館の今後について	<p>①市における産業史料館の存在意義を改めて伺いたい。</p> <p>②産業史料館の来館者を増やすことは、燕市の産業に対する関心を高めることにもつながるものと考えており、来館者数の増加にしっかりと取り組んでいくべきと思うが、今後の具体的な取り組みをどのように考えているか伺いたい。</p> <p>③産業史料館のあり方に、産業についての学びの場として気軽に足を運ぶことができる図書館的機能も加え、関連資料を増やし学習机や会議のできるスペースを設置すると同時に、市民や学生の入館料を無料化できないか。</p>
5	堀勝重 (一問一答方式)	1. 平成28年度市政方針について	(1) 変化に対応する農業の振興について	<p>昨年の12月一般質問において、地場産業製品の国内での販路拡充はもとより、農産物も含めたより幅広い取り組みを行っていくことも重要ではないかと言うことと、農・商・工の連携について質問させていただいたところであります。</p> <p>平成28年度市政方針の中で、「基本方針1 雇用・就労を支える産業の振興」の施策2において、「燕青空即売会」の開催等を通じ、金属製品などのPRを積極的に行い、地域産品のモノの流れを活発化させるなど、卸売業や物流業の活性化にも取り組んでいくとあります。</p> <p>また、施策3においては、「ふるさと納税」と連携した「飛燕舞」、ヤクルトスワローズと連携した「つば九郎米」を牽引役に、安全・安心な燕農産物の販路拡大や農商工の連携支援についても取り組むとあり、また、今年度から商工観光部と農林部を統合して産業振興部とし、農業・工業・商業・観光の連携を強化しながら、産業全体の活性化を図ってまいりますとあります。</p> <p>そこで、小項目</p> <p>①燕農産物の販路拡大、農商工の連携による施策及び事業等や強化・支援について、具体的な取り組み等について伺います。</p> <p>②「燕青空即売会」において金属製品などに加え、新たな産業振興部の支援による、農・商・工の連携の基、一般農家の方々が生産した農産物等を、出店し販売してみたいか。販路拡大の第一歩になるのではないかと伺います。</p> <p style="text-align: right;">(次ページへ続く)</p>

発言の順序	発言する議員	質問項目(大項目)	質問要旨(中項目)	具体的な内容(小項目)
5	堀 勝重 (一問一答方式)			③新潟市南区内の果樹農家で経営がうまくいっている方がおられると聞いたことがあります。農・商・工の連携の基、このような方々から講師になっていただき、講演会等を開催してみてはいかがでしょうか。農家の方々や企業の方々にとって実りあるものになると思うのがいかにか伺います。
6	埴 豊 (一問一答方式)	1. 福祉政策について	(1)介護職などの現状と課題について	①介護士、看護師の現状と今後の推移について ②益々増加が見込まれる超高齢化社会への対応について ③就労支援策と人材の掘り起こし策について
			(2)子育て支援策について	①子育てをしながら働きやすい環境作りについて ②24時間対応型の保育施設の可能性について ③祖父母手帳について
		2. 教育問題について	(1)学力向上について	①過去数年間におけるNRT(全国学力調査)の結果をどのようにとらえているか。 ②小学校の結果と中学校の結果での一番の問題点は。
			(2)中学生の学力向上にむけて	①中学校での部活の有り方について ②中学生の家庭学習について
			(3)ICT教育事業について	①ICTの活用について 小学校での活用について 中学校での活用について
		3. 産業問題について	(1)減少を続ける事業所問題について	①後継者育成に対する支援策について ②失われる技術の継承について
7	土田 昇 (一問一答方式)	1. 大河津分水路の拡幅工事について	(1)平成28年度、国土交通省予算の内容について	①4月3日の新聞報道によれば、信濃川改修のうち用地取得と河川掘削を進めると報道されたが、燕市に関係する予算の内訳について伺う。(27億500万円) ②昨年8月7日に、該当する集落に信濃川河川事務所が地元説明会を開いたと聞いているが、そのときの説明内容は要約すると以下の6点に集約されると思います。 1)最初に分水路右岸堤防を15～16メートル拡幅する。 2)それに伴い蒲原用水及び道路は東側に移動させる。 3)計画路線上家屋、用地などはこれから測量し買収交渉する。 4)堤防拡幅部分は野中才共同墓地から堤防に上がる道路から下流に至る。 5)家屋の移転が迫られる世帯は蒲原用水脇の野中才・新長の5世帯にのぼる。 6)堤防拡幅の土砂は分水河口左岸(渡部地区)から搬出する。 以上の6点が説明されたと思いますが、それ以後説明会は開かれたのか、さらに変更はないのか伺う。 ③騒音、振動、粉塵の問題が今後大きな課題になってくると思うが地元住民の立場に立って信濃川河川事務所に説明会の開催を求めていくべきと考えるが、その対応について伺う。

(次ページへ続く)

発言の順序	発言する議員	質問項目(大項目)	質問要旨(中項目)	具体的な内容(小項目)
7	土田昇 (一問一答方式)			④残土処理の計画について担当者はなるべく近場でと考えているが、補助事業や土地改良事業もないので、大量に受け入れてもらえる場所を検討しているとしています。現状の認識と今後の対応について説明会の開催を強く求めるべきと思うが、その点について伺う。
		2. 国道116号交差点改良事業について	(1)直轄事業の内容について	①直轄事業として116号線吉田下中野地区の自転車、歩行者道整備で予算が1億1,100万円及び、法花堂地区の自転車、歩行者道整備で900万円が示されたが、この間長い年月が経過しているがこの予算ですべて終了するのか伺う。
		3. 県央大橋西詰周辺地区の予算について	(1)今後の対応について	①社会資本整備総合交付金の中で県央大橋西詰周辺地区の予算でも1,660万円が計上されているが、その内容について伺う。 ②地権者に土地代金すべて支払っているのか伺う。
		4. 旧燕工業高校跡地利用について	(1)今後の見通しについて	①旧燕工業高校の跡地については、合併後まもなく厳しい財政状況の中でも、新潟県より譲渡価格1億5,358万3千円で買入して、再利用についていろいろと考えてまいりましたが、「県立武道館」の誘致に失敗し、「事業者提案制度」も実現できず、いよいよ今回の6月議会で解体工事の費用として3億7,908万円提案されてきますが、合計金額で5億3,266万3千円にもなりません。特養を除く面積について、今後どのように考えているか。使った金額に対して、それに見合った以上の金額を回収すべきと考えますが、今後どのように考えて対応するのか伺う。
8	山崎光男 (一問一答方式)	1. 燕市の今後10年を見据えた燕マラソンの拡充と、交流・応援(燕)人口の増加について	(1)燕マラソンの現況と改善について	①4月29日に開催された第27回燕マラソンは、初めてICチップを導入したこともあり、事前申し込み者数が617人、うち県外からの参加ランナーが23人と、共に過去最大規模となった。 私も実際走ったが、参加カテゴリーやコース、給水所、参加賞、表彰式や抽選会などを含むおもてなしの点から、まだまだ工夫の余地・改善点が多く見受けられると感じた。 来年以降、もっと多くのランナーに支持される大会にしていくためにも、現行のレース全体を見直し、更に魅力ある大会に出来ないか、当局の考えを伺う。
			(2)燕市初となるハーフマラソン開催について	①近年の健康志向・マラソンブームから、市民ランナーは増加の一途を辿り、特筆すべきは、昨今マラソン大会は長い距離ほど人気があり、申し込はフルからハーフの順に受付終了するのが現状である。 現在県内30市町村のうち、19でハーフ以上の距離のマラソン大会が存在している。燕市にもハーフマラソン大会があれば、今よりもはるかに多くの参加者が全国から来燕し、マラソンによる本市のPR効果・地域活性化効果が見込まれることから、ぜひ開催して欲しいが、今後の展望を伺う。

(次ページへ続く)



発言の順序	発言する議員	質問項目(大項目)	質問要旨(中項目)	具体的な内容(小項目)
8	山崎光男 (一問一答方式)		(3)マラソンと観光を組み合わせたインバウンド戦略について	<p>①燕市は全国に名だたる金属洋食器のまちであるとともに、米・トマト・胡瓜・豚肉、背脂ラーメンや鶏肉のレモン和えなど、「食のまち」としての側面も見逃せない。</p> <p>中項目1・2を踏まえ、燕マラソン大会を参加者や観光客にもっと盛り上げていただくためにも、大会会場に飲食ブースや、燕産農産物・金属酒器・きららんグッズなどの物販コーナーを設けたり、ゆるキャラを登場させたりして、分水おいらん道中のような大きなイベントに育て、燕市の文化を広く市・県内外にアピール出来ないか伺う。</p>
9	樋浦恵美 (一問一答方式)	1. B型肝炎ワクチンについて	(1) B型肝炎ワクチンの定期接種化について	<p>厚生労働省は、本年4月以降に生まれた0歳児を対象に、B型肝炎ワクチンを10月から定期接種化することを表明しました。</p> <p>定期接種は生後2か月、3か月、7～8か月の3回実施することになりますが、以下の点について伺います。</p> <p>①本年10月の定期接種化に向け、燕市としてどのような取り組みを行うのか。</p> <p>②現在、B型肝炎ワクチンは任意接種ですが、燕市の接種状況はどうか。</p> <p>③今回対象とならない、特に3歳児以下への予防接種も必要ではないかと思うが、必要とされる3回の接種は家計に大きな負担となります。燕市として、接種費用の助成をすべきであると考えているがどうか。</p>
		2. 食品ロスの対策について	(1)食品ロス削減に向けての取り組みについて	<p>「食品ロス」は、食べ残しや賞味期限切れなどで、本来食べられるのに捨てられてしまう事で、農林水産省によると、日本では年間2,801万トン(平成24年度推計)の食品廃棄物が発生し、このうちの4割近い642万トン(平成24年度推計)が食品ロスと推計されています。</p> <p>①燕市においても、まずは学校や幼稚園・保育園などで食べ物を無駄にしない食品ロス削減のための啓発を進めるべきであると考えているがどうか。</p> <p>②飲食店等における「飲食店で残さず食べる運動」の展開など、市民、事業者が一体となった食品ロス削減に向けての取り組みを進めることが重要であると考えているがどうか。</p>
		3. 定住人口増戦略について	(1)移住、定住の促進について	<p>①若者のUターンを促進するため、昨年度から「東京つばめいと事業」などさまざまな取り組みを始めているが、その効果について伺う。</p> <p>②奨学金返還でご苦労されている市民の方もいる。若者が燕市に戻りたいと思ってもらうため、燕市に戻って就業した方に、奨学金返還を支援する取り組みも必要であると考えているがどうか。</p>

発言の順序	発言する議員	質問項目(大項目)	質問要旨(中項目)	具体的な内容(小項目)
10	齋藤 信行 (一括質問方式)	1. 新教育長に新任の感想について	(1) 燕市に来て感じたことについて	① 燕市の全体の印象について伺います。 ② 燕市の教育の印象について伺います。 ③ 各地区、各学校は合併により燕市になりましたが伝統・歴史もあるので感じました事を伺います。
			(2) 教育立市宣言について	① 燕市の教育立市宣言について新教育長として、市の教育に対する思いでもありますが、新教育長の教育立市宣言についての印象について伺います。
(3) 教育に対する思いについて	① 新教育長の教育に対する思いについて伺います。			
		2. 少子化対策について	(1) 対策事業の実施状況について	① 昨年度から少子化対策の一環として、「男女出会いサポート事業」を実施していますが、実施状況、また参加者の評価はどうか伺います。 ② イベント開催にあたり、市民から問い合わせや意見要望等はあるか伺います。 ③ 近隣自治体、民間でも多くのイベントが実施されているが、競合など影響等はないのか伺います。 ④ ③とは対象が反対になりますが広域で実施することもあるのかも伺います。
11	山崎 雅男 (一問一答方式)	1. 安全・安心で暮らせるまちづくりを推進するにあたり	(1) 空き家の現状と不審火の関わりについて	① 燕市内で特に吉田地区で不審火が後を絶たない異常事態。 地域防犯組織の吉田地区粟生津地域の第2地区防犯連絡協議会は防犯カメラの設置や消防団員による見回りにも積極的に進めたりして力を入れてきたが、今年、4月17日未明に粟生津地域で発生した不審火は、存念寺を挟み南北の近距離で空き家火災が連続2件発生。燕市民や地域住民にとって、不安が増す不審火に対しての市の現状認識と対応策を伺う。 ② 空き家が増加することにより、不審火の発生範囲が広がり不安が増すばかりの昨今。空き家問題は防災・防犯・公衆衛生・景観等々の多岐にわたり地域住民の生活環境に深刻な影響をもたらすが、空き家の実情に地域が共有して情報提供が重要かと思われるが見解を伺う。 ③ 不審火等の犯罪を未然に防ぐ手段、抑止効果も大きいと思われる防犯カメラの設置場所はどのように取り組まれているのか伺う。 また、燕市内防犯カメラ設置台数と各自治会からの要望、取り組みについて伺う。 ④ 平成27年5月26日に空き家等対策の推進に関する特別措置法が全面施行されたことに伴い、放置することが不適切であると認められる空き家等を特定空き家等と定義し、指導・勧告・命令・行政代執行等が可能となった中で、本市の特定空き家等の現状はどのように取り組まれているのか伺う。

(次ページへ続く)

発言の順序	発言する議員	質問項目(大項目)	質問要旨(中項目)	具体的な内容(小項目)
11	山崎 雅男 (一問一答方式)	2. 農業情勢について	(2) 燕市空き家バンク登録状況について	<p>① 燕市空き家バンクに登録されていた、粟生津地域屈指の名門である鈴木家の跡地に空き家等の地域貢献モデルに相応しい、小規模多機能施設「長善のさと」が完成し、不審火の解消としても地元で大変喜ばれているが、現在の空き家・空き地の市内外の所有者登録申し込み数と活用申し込みはどのようなのか伺う。</p> <p>② 空き家・空き地所有者の意向はあるが、小規模多機能施設「長善のさと」のように民設民営化による施設等への有効活用に積極的に推進していくべきかと思うが見解を伺う。</p>
12	柳川 隆 (一問一答方式)	1. 第2次燕市総合計画について	(1) 第2部基本的方向と基本目標のこと	<p>① 基本的方向(戦略体系) 3つの人口増戦略(冊子の20~22ページ)</p> <p>1) 定住人口増戦略 「住みたい・働きたいと思う人を増やす」</p> <p>2) 活動人口増戦略 「キラキラ輝く人を増やす」</p> <p>3) 交流・応援(燕)人口増戦略 「訪れたい・応援したいと思う人を増やす」とあるが</p> <p>イ. 1) 2) 3)のそれぞれの「」の増をどうやって把握するのか伺う。</p> <p>ロ. また、平成34年における目標人口を78,000人と設定している中で、2) 3)の人口増は違和感を覚えるが意図は何か伺う。</p> <p>② 基本目標(重要指標) (冊子の24~26ページ)</p> <p>(1) 目標人口は何人と設定します。以外(2)自然動態(3)社会動態(4)交流人口(5)住みやすさ(6)居住意向全て末尾の表現は「目指します」となっており、達成意欲に欠ける感じがするがいかがか伺う。</p>

(次ページへ続く)

発言の順序	発言する議員	質問項目(大項目)	質問要旨(中項目)	具体的な内容(小項目)
12	柳川 隆 (一問一答方式)		(2) 第3部戦略別計画のこと	<p>①健全な心と体を支えるスポーツの推進(冊子 57 ページ)</p> <p>1) 施策の達成目標の中の市民一人当たりのスポーツ施設の利用回数で基準値、中間目標値、目標値がほぼ横ばいなのは何故か伺う。</p> <p>②心豊かな生涯学習・文化活動の充実(冊子 58、59 ページ)</p> <p>1) 現況と課題の説明文の中で「必要があります」という表現が5回、「求められています」という表現が3回出てくる。同じような意味なので合計8回出てくるというのはこの長くもない文章には多すぎると思うし、どれが現況でどれが課題なのか区別が付きにくい。</p> <p>その中で、上から8行目に、社会全体で子どもを育む気運の醸成を図る「必要があります」とあって、主要施策1の最後に社会全体で子どもを育む気運の醸成を「図ります」とある。これなど課題と施策がほとんど変わらない見本、安易すぎると思うが、いかがか伺う。</p> <p>2) 施策の達成目標で2項目とも、目標値が横ばいなのは何故か伺う。</p> <p>③まちなか居住と空き家等対策の推進(冊子 87 ページ)</p> <p>主要施策1、2共末尾が「検討します」となっているのは施策ではないのではないのか伺う。</p>
13	宮路 敏裕 (一問一答方式)	1. 地方をとりまく景気動向と産業の振興について	(1) 消費税増税先送りと今後の景気動向について	<p>①安倍政権は来年4月からの消費税率10%への引き上げを再延期すると表明した。8%増税後、GDP国内総生産の6割を占める個人消費が昨年、一昨年と2年連続マイナスとなった。首相はこの秋に大胆な経済対策を実行すると表明している。国民は3年半待っているが、いっこうに景気は良くなり、安倍政権の経済政策アベノミクスと増税路線は失敗と考える。2014年12月議会の一般質問では、市長は景気動向について「景気の回復の足が遅い、アベノミクスの効果が一部のみにしか及ばず、地方の中小企業まで届いていない」との認識を述べられた。この先、アベノミクスが地方経済の活況に及ぶと考えるか、認識を伺う。</p> <p>②消費税は社会保障の持続可能性を確保するために必要不可欠、また、国の財政赤字解消のためとも政府は説明しているが、国民には増税によって社会保障が充実した実感は全くない。本市の市民にとっても、医療や介護の負担増が繰り返し強いられている。社会保障を持続的に充実させるには富裕層・大資産家に累進課税を強化するなど、所得再分配機能をはたらかせる道が原則で、これは憲法に精神に沿った施策であると考え。政府に対して、本市として逆進性課税の消費税増税は先延ばしでなく中止を求めていくべきではないか、認識を伺う。</p>

(次ページへ続く)

発言の順序	発言する議員	質問項目(大項目)	質問要旨(中項目)	具体的な内容(小項目)
13	宮路敏裕(一問一答方式)	2. 教育環境整備の促進について	(2) 商業振興・小規模事業者を応援する施策について  (1) 就学援助制度の適用状況や制度の充実について	<p>① 地域循環型経済施策として、地方自治体による住宅リフォーム助成事業が全国で 603、全自治体の 33% に広がっている。その上で、事業用店舗などを対象にした「店舗リニューアル助成事業」も、昨年度末で、全国では 55 自治体で実施していると、全国商工新聞で報じている。2014 年 12 月議会で本市に相応しい規模での「店舗リニューアル助成事業」の創設について一般質問で取り上げたが、その当時と比べてもこの事業が広がっている。広がりや理由や背景などどう考えるか、認識を伺う。</p> <p>② 市内商店主など対象事業者からのニーズ調査など行なっているか伺う。</p> <p>① 政府の発表による子どもの貧困率は、最新 2012 年の数値で 16.3% と、約 6 人に 1 人となり、年々増加している。政府は「子供の貧困対策大綱」を閣議決定し、地方自治体に「子供の貧困対策について、検討の場を設け、貧困対策について計画策定」をと、その大綱でうたっている。小中学生の貧困対策で不可欠なものとして、就学援助制度がある。本市の小学校・中学校合計の適用率について、2014 年度、15 年度の数値と、その中で年度途中からの申請の比率について伺う。</p> <p>② 学校とも連携をとって、対象者の漏れがないように目配りしているといわれるが、課題はあるのか伺う。</p> <p>③ 援助費目の「新入学児童生徒学用品費」は支給時期が 7 月である。新入学の準備費用は制服やカバンなど 3 月中にそろえることになり、大変な特別出費の時期になる。適用される家庭にすれば、支給時期を前倒ししてもらえたら、より助かることは明らかである。新潟市では、中学校入学時の「新入学生徒学用品費」の支給時期を入学前の 3 月に前倒しした。児童生徒の「学習権・進学権の保障」の観点からも、本市においても、同様の措置を取るよう検討すべきではないか伺う。</p>
14	藤井秀人(一問一答方式)	1. 都市計画について  2. 観光の振興について	(1) まちづくりの考え方について  (1) 観光振興のための取り組みについて	<p>① コンパクトシティ構想はあるのか伺いたい。</p> <p>② 空き家対策と平行してまちなか再生は考えていないのか伺いたい。</p> <p>③ まわりの環境変化による転用の見直し、土地利用方針のゾーンの見直しも可能なのか伺いたい。</p> <p>① 燕市の観光において、観光地点別観光客の見込み数の目標値と、新たな地点の整備を考えているのか伺いたい。</p> <p>② 国上山周辺及び大河津分水の観光発信のための新たな具体的な施策は考えているのか伺いたい。</p>

発言の順序	発言する議員	質問項目(大項目)	質問要旨(中項目)	具体的な内容(小項目)
15	長井由喜雄(一問一答方式)	1. 国民健康保険の都道府県単位化問題について	(1)新潟県の国民健康保険運営方針と燕市の姿勢について	<p>①県が定めようとする国民健康保険運営方針とは1.どんなものなのか、2.どういう手順を経てつくられていくのか、3.何が定められるのか、を伺う。</p> <p>②燕市が行っている人間ドック補助事業や、今年度突発的な医療給付に対する基金繰り入れなど、一般会計から特別会計に繰り入れを行うことについてはどうなるのか伺う。</p> <p>③新潟県が財政運営をすることにより、国民健康保険会計はどう変わっていくのか伺う。</p> <p>④県に対し「納付金」という形で保険料を納めることにより、現在とどう変わっていくのか。懸念されることは何か伺う。</p> <p>⑤現在の「保険税」はこのままか、それとも「保険料」となるのか。「料」となる場合、燕市ではどのような変化・影響があると考えられるのか伺う。</p> <p>⑥燕市は積極的に給付費削減の取り組みを行ってきたが、これらはどう評価されていくのか。またどう影響することになるのか。保健事業との関連ではどうなるのか。</p> <p>また「県と市町村の国保事務をスムーズに進めるため」として「標準的な電算システム」が国と国保連により共同開発されていると聞く。燕市ではこれまで独自のシステムを生かした給付費軽減対策を行ってきたのではないか。県単位となることで、これが後退することはないのか伺う。</p> <p>⑦条例減免をはじめ、「保険税が高すぎる」という根本的な問題について、市はどのような立場で臨むのか伺う。</p>
		2. 利用者、議会をないがしろにする公立保育園の民営化について	(1)つぼみ保育園、吉田西太田保育園の民営化(案)について	①つぼみ保育園、吉田西太田保育園の民営化(案)については、応募要項等の配布を7月1日からするとしており、議会はもとより、利用者である保護者の意見も聞かずに、民営化ありきの案となっている。(案)の問題点とともに当局の公立保育園運営の姿勢について伺う。
			(2)これからの幼稚園・保育園・こども園などの当局が考える「適正配置」と公立保育の保障について	①保育制度の改定によって保育環境の変化がおきている。今後の幼稚園、保育園、こども園の当局が考える「適正配置」と公立保育の保障についての考えを伺う。
16	大岩勉(一問一答方式)	1. 市長の政治姿勢について	(1)社会教育施設使用料の見直しについて	<p>①公民館・体育施設・文化施設などの総市有対象施設の使用料を見直す予定について伺う。</p> <p>②類似施設の統合や、施設の供用複合化再編整備はどのように取り組んでいく考えなのか伺う。</p> <p>③小・中・高校生の利用者、各文化サークル活動者、高齢者による健康教室などに対する「減免処置」はどのようになるのか伺う。</p>

(次ページへ続く)

発言の順序	発言する議員	質問項目(大項目)	質問要旨(中項目)	具体的な内容(小項目)
16	大岩勉 (一問一答方式)		(2)アーチェリーのまちPRについて	<p>①モンゴル国、アーチェリー協会と事前キャンプの覚書を締結されたが、燕市民に対するPRが足りないのではないかと伺う。</p> <p>②モンゴル国との今後の交流はどのように考えているのか、経済効果を引き出すための計画について伺う。</p>
		(3)つばめ若者会議アクションプランについて	<p>①燕の幸福論としてのテーマとして何を議論し、行動に進展されてきたのかについて伺う。</p> <p>②燕屋旅館プロジェクトではどのような議論がなされ、機能4つ 1)ライブラリー&amp;シェアオフィス機能 2)マッチングサービス機能 3)ホームステイ斡旋機能 4)クラウドファンディング機能を挙げられていたが、その機能から何を立ち上げたのか、市政・政治に対するチャレンジ的な議論もされていたのか伺う。</p> <p>③20年後のビジョンについて「創造性とチャレンジ精神」を結集されてとあるが成果は出ているのか伺う。</p>	
		(4)防災無線のチャイムメロディについて	<p>①現在のイントロメロディが何の音楽かわからないと苦情が多いが、変更する考えは持っていないのか伺う。</p> <p>②燕PR大使の上杉香緒里さんの歌・本宮宏美さんのフルート・一番市民に子供たちに親しまれている歌は「みんなつばめのこども」などいろいろあると思うが市長の考えを伺う。</p>	
		2. 教育現場の振興策について	(1)学校運営に外部人材の活用について	<p>①国会議員の自民・公明両党の議員連盟は「チーム学校」推進法案を大筋でまとめました。教育に積極的に取り組む地域社会実現を目的としておりますが燕市としての対応を伺う。</p> <p>②発達障害など特別支援が必要な子供の増加や、いじめなど複雑化する学校の課題に対する専門性の高い外部人材を充て、教員負担の軽減につなげる対策が今後必要であると思うが教育長の考えを伺う。</p>
		(2)高校再編計画案について	<p>①県立高校の将来構想案で、中卒者の減少に伴い他校との統廃合が検討されています。県央は、分水・吉田高校が対象とのこと。燕市内の高校がこれ以上なくなるような、今すぐにも行政として存続に対する行動をすべきと思いますが考えを伺う。</p> <p>②高校教育課では、公表した素案から各地での説明会、学校・PTAにパブリックコメントの意見を踏まえて成案化したとあるが、燕市教育委員会としてどのように考え又とらえられているのか伺う。</p>	
		(3)18歳選挙権啓発活動について	<p>①総務省も「若者への周知、啓発活動」が特に重要と高校生向け選挙権副教材を配布しました。「共通投票所」の制度も7月の参院選からスタートいたします。燕市としての取り組みを伺う。</p> <p>②安全保障関連法への反対を呼びかけるチラシを校門前で配って署名を求める北海道の教職員組合も出ているが、燕市内の高校ではそのような行動はないと思うが確認すべき事でないか伺う。</p>	

発言の順序	発言する議員	質問項目(大項目)	質問要旨(中項目)	具体的な内容(小項目)
16	大岩勉 (一問一答方式)	3. 防犯・消費者保護対策の推進について	(1)防犯カメラの補助取り組みについて	①市内に補助金を利用して取り付けられた台数はどのくらいか。抑止効果と事件事故後の対策には利用度が高く、今後も補助取り組みを拡大すべきと思うが考えを伺う。
			(2)振り込め詐欺や悪質電話勧誘対策について	①高齢者宅などに不審電話が相次ぐ特殊詐欺事件が後を絶ちません。燕市内での被害状況は確認されているのか伺う。 ②新潟県警などでは通話録音装置を無料で貸し出ししており、2月末では県内23自治体も貸し出しや購入補助を実施しているとあるが、燕市としての取り組みと現状を伺う。
17	タナカ・キン (一問一答方式)	1. 教育行政について	(1)施設の整備と授業について	①5月20日に総務文教常任委員会の市内視察で小池中学校を訪れた。特別教室棟の老朽化が進み、建て替えが必要となったことから改築工事が実施され、その見学である。 学習環境の改善を図ったもので、トイレの改修をはじめ、教室も新しくなった。教室の中に金工室があったが後で確認したところ、現在は金工の授業が行われていないという。 第2次燕市学校教育基本計画の中で、燕市の文化・伝統、産業等の特色を活かした教育の推進をあげている。燕市の産業の原点は金工であるのに、なぜ授業が行われていないのか伺う。また、いつから行っていないのかも伺う。 ②他の中学校の現状についても伺う。
		2. 産業史料館の再生について	(1)入館者の増加対策について	①私は、平成24年の3月定例会で産業史料館の再生について質問を行った。その時の答弁で、入館者増加に向けた取り組みを強化すると、具体的な内容もあげてもらった。実際に取り組んだ内容と成果について伺う。 ②入館者数を増やすためには企画展の充実があげられる。 燕市には人間国宝の玉川宣夫氏がおられる。現在、金工の人間国宝の作家は24名であるが、金工作家の人間国宝シリーズ展が開催できないだろうか。亡くなっている方もおられるし、交渉するにしても大変で予算もかかるだろうが、産業史料館の知名度を上げることになると思う。 ③若手作家の登竜門となる様な金工の全国規模の公募展は考えられないだろうか。 ④この春、東京都美術館で開催された「生誕300年記念若冲展」が大人気で、31日間の会期中で入場者が44万6千人に上ったという。これをみても、美術館・博物館は企画が全てということがわかる。 東京都美術館では毎月第3水曜日はシルバーデーとして65歳以上の入場者は無料で、この日は特に入場者が多かったということである。産業史料館でもシルバーデーを設定できないだろうか。

(次ページへ続く)



発言 の 順序	発 言 す る 員	質 問 項 目 (大項目)	質 問 要 旨 (中項目)	具 体 的 な 内 容 (小項目)
17	タナカ ・キン (一問一 答方式)	3. (仮称) 観光交流 センター 等整備運 営事業に ついて	(1)道の駅構想 について	<p>県央大橋西詰周辺地域整備基本計画策定懇談会が平成26年8月4日の1回目から平成27年6月30日までに7回開催されている。</p> <p>①核となる産業史料館の利用者数を増やす具体的なアイディアは出たか。</p> <p>②会議の中で道の駅という話が出てきたと思う。燕三条地場産業振興センターがリニューアルされ道の駅になるとの情報を受け、委員はどんな反応や意見が見られたのか伺う。</p> <p>③道の駅にすることで産業史料館の入館者は年間どれくらいと見込んでいるか。</p> <p>④農作物の直売所をもうける理由について。</p> <p>⑤直売所と燕製品の物産スペースがそれぞれ150平方メートルと同じ理由について。</p> <p>⑥新聞報道によれば、燕三条地場産業振興センターの物産館の売り上げは好調で、道の駅となった今年度は更に売り上げ増が見込まれている。 一方、レストラン事業は不調で、平成27年度の収支は1千万円超の赤字ということである。 燕市の場合、運営を民間事業者に委ねる計画だが、予定されているレストランなど採算が取れなければ参加してもらえない。採算の見込みについて伺う。</p> <p>⑦農産物直売所・燕製品の物販・レストランの家賃の設定はどの程度と考えているか伺う。</p>